

歴史は、歩くともっと面白い。 史跡巡りがライフワークになった理由

休日の過ごし方は人それぞれ。でも「歴史を歩く」という選択をする人には、どこか静かな情熱がある。今回は、月に一度の史跡巡りをライフワークとして楽しむ吉野達哉さんに、その魅力とこだわりを聞いた。

Q1:歴史に興味を持ったきっかけは?

A:

学校の社会科も好きでしたが、本格的なきっかけは、幼い頃に家族と一緒に観ていた大河ドラマ等の時代劇です。特に印象に残っているのは『秀吉』(1996年)や『徳川慶喜』(1998年)。ドラマを通して、実際にその時代に生きていた人々の感情や背景が見えてきた気がして、グッと引き込まれました。自分にとっては、あれが“歴史との出会い”でしたね。

*『秀吉』:1996年放送のNHK大河ドラマ。

*『徳川慶喜』:1998年放送のNHK大河ドラマ。

Q2:史跡巡りを始めたきっかけは?

A:

大学に進学し、アルバイトで自由な時間ができた時から色々と回っていたのですが、東京に引っ越した後に本格的に始めました。特にコロナ禍で外出自粛が解除された後、“運動不足解消”と“1人の時間をどう過ごすか”と考えた時に浮かんだ答えが史跡巡りでした。

Q3:今、特に興味を持っている時代や人物は?

A:

以前は戦国時代や幕末が好きだったのですが、最近は明治時代以降や、2025年の大河ドラマ『べらぼう』で描かれる江戸時代中期に関心が移っています。人物では徳川家康が一番好きですね。200年以上も平和が続いた江戸時代の礎を築いた人物として、世界的にみても稀有な存在だと思います。それに、歴史書に興味を持つきっかけになったのも、大河ドラマ『葵 徳川三代』(2000年)でした。

*『べらぼう』:2025年放送中のNHK大河ドラマ。

*『葵 徳川三代』:2000年放送のNHK大河ドラマ。



HALZ 運用チーム
吉野 達哉
社労士有資格者
2018年入社

Q4:史跡の行き先はどう決めていますか?

A:

2つのパターンがあります。1つ目は、普段使わない電車の路線や、行ったことのない地域を起点にして、その周辺にどんな史跡があるかを調べる方法。2つ目は、大河ドラマで取り上げられた場所をスタート地点にして、そこから関連する史跡を巡るという“ドラマ連動型”です。

Q5:史跡巡りで欠かせないことは?

A:

やっぱり「予習」です。現地には何も残っていないことが多いので、行く前にその場所に関係した人物や出来事を調べておきます。そうすることで、何もない場所でも、自分の頭の中で“その時代の風景”が立ち上がりてくるんです。「ここで何が起きたんだろう?」と想像しながら歩くのが、史跡巡りの一番の楽しみですね。

Q6: 巡る頻度やスケジュールは?

A:

基本は月に1回、土日を使って日帰りで巡っています。一度に3~4か所ほど回りますが、時間に余裕がある時は、気まぐれで泊まることも。例えば、小田原に行ったときは“もっと見たい”という気持ちが勝って、急遽宿を取りました。

Q7: 印象に残っている史跡は?

A:

初めて京王線に乗って訪れた分倍河原(ぶばいがわら)ですね。駅からけっこ歩く場所にあって、ただ石碑がひとつ立っているだけ。でも、そのシンプルさがむしろ印象的でした。道に迷いながら汗だくでたどり着いた経験も、今となっては特別な記憶です。

また、別の史跡を巡っていたときに「豪徳寺」という寺の名前に惹かれて立ち寄ったら、井伊直弼のお墓があり、ここが井伊家の菩提寺だと知って驚きました。後から『ブラタモリ』で招き猫の由来が豪徳寺にあると知ったときも「つながった！」と感動しましたね。

忠臣蔵も好きなので、新橋で偶然見つけた「浅野内匠頭終焉の地」にも驚きました。泉岳寺や吉良邸跡には行っていたのに、まさかここで出会うとは…と思わず「わーっ」と声を上げて、写真(右画像)を撮ってしまいました。

***豪徳寺**: 東京都世田谷区にある寺院。招き猫を模した像が多く飾られる人気スポット。

***井伊直弼**: 幕末期に活躍した大名。1860年、桜田門外の変において暗殺される。

***『ブラタモリ』**: タモリさんが町歩きを通じて歴史や文化を7紹介する番組。2025年NHKで放送中。

***忠臣蔵**: 1701年に起きた「赤穂事件」を基にした創作物の通称。

***浅野内匠頭**: 江戸時代初期の赤穂藩主。忠臣蔵の物語内で切腹を命じられる。

***泉岳寺**: 東京都港区にある寺院。吉良邸へ討ち入った赤穂四十七士の墓がある。

***吉良邸**: 忠臣蔵の敵役である吉良上野介の邸宅があった場所。



Q8: 史跡巡りが仕事に影響することありますか?

A:

ありますね。史跡巡りでは、ほんの小さな発見や、目に入りづらい看板にも敏感になります。そういう“気づきの感度”が、仕事でも新しい視点やアイデアにつながることがあるんです。あと、静かな場所で本を読んだり考えごとをしたりする時間が、良いリフレッシュになって、結果的に仕事への集中力も高まります。

Q9: 今後、訪れたい場所は?

A:

これまで東京近郊ばかりだったので、今後はもう少し遠くへ行ってみたいです。徳川家康ゆかりの浜松や三河地方、そして関ヶ原の戦場跡。できればそのまま京都まで足を伸ばして、時代の転換点を肌で感じみたいと思っています。



Q10:初めて史跡巡りをする人にアドバイスをお願いします。

A:

史跡巡りは、ただの観光とはちょっと違う“時間旅行”です。ウォーキングや登山、電車旅が好きな人なら、その延長線上で楽しめます。大切なのは、予習と想像力。何があった場所なのか、誰が歩いた土地なのかを思い浮かべながら巡ることで、景色がまったく違って見えてくるはずです。その“深み”が、史跡巡りならではの魅力ですね。

編集後記

今回の社内報は、インターンシップ生の木村が作成しました。

初対面にもかかわらず、ざっくばらんに語っていただいた吉野さん、社内報作成にあたって指導いただいた潘さん、岸本さんに心より感謝申し上げます。

ZOOMで実施したインタビューでは、大河ドラマを通じて歴史への興味を育んだという共通点から楽しく会話するように進行できました。

そして、その際の声や表情を通じて、改めて好きなことを語っている時の人の素晴らしいを実感することができました。

今後も皆さんからこういった形でお話を聞く機会をいただければと強く願っています。

最後に読者の皆さんも吉野さんから教えていただいた「今は何もない場所への想像力」を働かせて史跡巡りを楽しんでみてください。

HALZ 木村 光

歴史研究サークルを立ち上げよう！

今回のインタビューを通じて、より多くの人々と歴史を接点に交流を深めていきたいと思いました。

専門的な話題を扱うのではなく、何気ない会話の延長で歴史について語り合い、社員のみならず在宅勤務スタッフや社外の方々も含めた間口の広いコミュニティを作りたいです。

興味・関心のある方やサークルの展開にあたって良いアイデアを持っている方がいらっしゃれば、是非お知らせください。



江戸城石垣
(東京都千代田区)



西郷隆盛像
(東京都上野恩賜公園)



六義園
(東京都文京区)